

■富良野市 校務 DX 計画

児童生徒1人1台端末導入後、授業支援ソフトウェアや学習 e ポータル等を活用し、教育のデジタル化を進めてきた。また、教職員間においては、校務支援システムやクラウドサービスを活用し、伝達事項や各種資料及び教材をデジタル化して共有している。さらに保護者とのやり取りにおいても、学校ホームページやメール連絡網サービス等を活用するなどデジタル化を進めてきた。

今後、校務 DX を推進するために「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、具体的な取組みを次のとおり設定する。

1. 校務系及び学習系ネットワークの統合

現在、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の2つに分離し、インターネット経由等から児童生徒の個人情報等にアクセスできない構成としている。そのため、校務用と学習用それぞれ端末を用意し、校務用端末は持ち出しを禁止している。今後、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、1台の教職員用端末で2つのネットワーク（校務系及び学習系）を切り替えて利用できるようゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき適切にセキュリティを確保しつつ、校務系・学習系ネットワークの統合について検討を進める。

2. 校務支援システムのクラウド活用

令和3年度より校務支援システムを導入し、校務における教職員の負担軽減を図っている。しかし、現行のシステムは、自宅や出張先で校務処理ができないことなどの課題がある。

これらの課題について、教職員の働き方改革を推進するために、どの環境からでもアクセス可能となるよう既存システムへのインターネット接続口の追加を検討する。

3. 校務における生成 AI 等の活用

先進的に実践している学校や自治体を参考にしながら、校務での利活用を推進していく。